

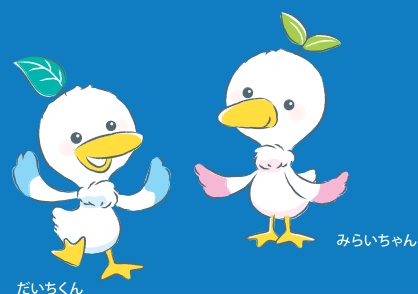


2023

大幸グループ CSR 報告書

Challenge to carbon neutrality!

持続可能な循環型社会へ！
カーボンニュートラルへの挑戦



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

【お問い合わせ先】
大幸グループ CSR 事務局

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002

■携帯電話からのアクセス
e-mail: sea-mew@daiko-group.com
右のバーコードを対応端末で読みとっていただければ、
直接サイトにアクセスできます。
<http://www.daiko-group.com/>



この印刷物は環境に配慮した
「ベジタブルインキ」で
印刷されています。

弊社は暴力団等反社会的勢力との取り引きは一切行いません（ホームページ掲載）

2024.1.1000

福井県 小浜



大幸グループは、地球環境保全のため カーボンニュートラルへの 新たなチャレンジを始めます。

大幸工業株式会社 代表取締役
大阪ベントナイト事業協同組合 代表理事
浜野 廣美

II カーボンニュートラル実現に向けた具体的な取り組みをスタート

近年、地球温暖化の影響による自然災害が世界各地で多発しています。世界的な課題となっている地球温暖化防止対策として、日本では 2050 年までに温室効果ガスの排出量と吸収量・除去量を均衡させる「カーボンニュートラル宣言」をしています。世界に向けた約束である「カーボンニュートラル」を実現するためには、企業はもちろん、国民一人ひとりの取り組みが不可欠です。

大幸グループは「地球を大切に」の企業理念を掲げ、10 年以上前から太陽光パネルの設置や省エネ設備の導入で、主要な温室効果ガスである CO₂の排出量削減に取り組んできました。それをカーボンニュートラル実現に向けた具体的な行動に進化させていきます。

カーボンニュートラル実現のためには、現状の CO₂排出量を正しく算定し、それを 2050 年に実質ゼロにするためのロードマップを作成しなければ

なりません。そのために必要な CO₂排出量の計算方法やガイドラインを策定してもらうことを、全国産業資源循環連合会を通して環境庁に働きかけています。地球温暖化の影響は、海水温の上昇でこれまで獲れていた魚が獲れなくなるなど、私たちの身近なところにも忍び寄っています。大幸グループは業界のトップランナーとして、カーボンニュートラル実現にチャレンジしていきます。



企業理念

私達は「地球を大切に」という合い言葉のもとに地球環境時代にふさわしい企業をめざしています。
リサイクル技術の開発など、産業廃棄物を地球にやさしく還す方法を常に追求め、
この大切な地球環境をすばらしい状態で未来に残したいと心から願う人間の集まりです。

II ガバナンス強化で、今以上にお客様から信頼される企業グループに

カーボンニュートラルの取り組みと並行して、ガバナンス（内部統制）の強化にも取り組んでいきます。それはつまり、顧客からの信頼に応える会社組織に改革していくことです。

ガバナンス強化は、上場企業のような大手企業だけのことと思われるかもしれませんが、インターネットで情報が瞬時に伝わる現代では、企業規模に関係なく会社組織としてのしっかりした統制が求められています。今以上にお客様からの信頼を得るには、法令やお客様との契約を遵守するというコンプライアンスの徹底はもちろん、大幸グループの基本方針である環境保全や地域社会への貢献を

社員一人ひとりがしっかりと認識して行動し、日々の仕事で実践できる組織であることが必要だと考えています。

さらに、持続的に成長できる企業グループになるためには、すべての社員が「こうしたらどうですか」と活発に提案できる組織にしていけることが必要です。現状に満足するのではなく、社員一人ひとりがより良い提案をするという意識を持ち行動していくことで、お客様から「大幸グループに任せておけば安心だ」と評価していただける企業となります。そのような組織を目指してガバナンス強化を進めていきます。

II 様々な社会課題の解決に向けて一歩ずつ改善を進める

資源リサイクルを通して地球環境の保全に貢献していくという事業方針は、もちろんぶれることなく推進しています。その本命となるハイブリッドソイル（以下 H.B.S）事業は、環境保全のモデル事業として採用していただけるよう国に働きかけていくとともに、H.B.S 生産に向けた新たな組織づくりと工場設立に向けた準備を着々と進めています。前回の CSR 報告書でお話したように、H.B.S は森林を破壊しない原料（リサイクル製品）であり、かつ海上輸送を活用することで、従来の山土に比べ大幅な CO₂削減に貢献できる事業です。

また、CO₂削減の一環として環境先進国スウェーデンのトラック「スカニア」を導入しました。スカニアは従来車に比べ燃費効率に優れており、ドライバーにとっても人気の車両です。将来的には水素で走る燃料電池車（FCV）など走行中に CO₂を排出しないトラックに切り替えていくことを目指して、まず一歩ずつ環境に良いものに改善していきます。

さらに、日本の大きな社会課題である女性活躍では、浜野真季常務取締役が「全国産業資源循環連合会女性部協議会」などに参加し、そこで得た知見を社内展開して、女性がよりいきいきと活躍できる

職場環境づくりを推進しています。

カーボンニュートラルの取り組みも含めて、大幸グループは様々な社会課題の解決に貢献できる企業グループとして、持続的な成長を目指していきます。どうか一層のご指導、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

優良事業者表彰



2023年6月2日、公益社団法人京都府産業資源循環協会より、大幸工業株式会社が優良事業者表彰を受賞しました。

特集1

カーボンニュートラルへの挑戦

カーボンニュートラル達成に向けた、 海水淡水化装置導入などの取り組み

大幸グループでは、大阪湾沿岸の堺プラントでリサイクル製品（再生土）の海上輸送を行うなど、CO₂削減に取り組んできました。2022年には、リサイクル製品（流動化処理土）の製造等に必要の用水を得るため、堺プラントに海水淡水化装置を導入。従来の車両輸送に代わる用水確保の手段とし、カーボンニュートラル実現に向けCO₂削減を図っています。今後も大幸グループは地球環境保全に向け、着実に取り組んでいきます。

CO₂削減に貢献する『海水淡水化装置』

大阪湾に面した堺プラントでは、海水をポンプで汲み上げ、1時間あたり12.5 m³を淡水化処理しています。汲み上げた海水は、砂ろ過装置・チェックフィルターを経てろ過水槽へ。その後、海水淡水化装置で塩類・不純物をろ過しタンクに貯蔵します。一般的な工業用

水を上回る純度の水が得られ、これを流動化処理土「ポリソイル」の製造等に使用しています。淡水約400 m³の貯蔵が可能で、安定的に用水を確保でき、車両輸送によって発生するCO₂を低減しています。



砂ろ過装置とチェックフィルター。奥が海水淡水化装置のコンテナ



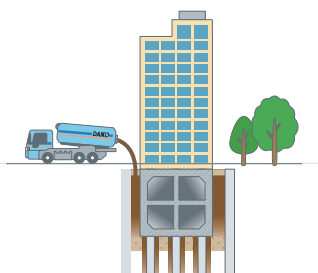
RO（浸透）膜を連ねた海水淡水化装置。処理水槽の水が一定量減ると自動的に稼働する仕組みです

循環型経済に寄与する、 流動化処理土「ポリソイル」

建設汚泥をリサイクルした、資源循環型の埋め戻し材。狭い間隙の埋め戻しが可能で、転圧・締め固めと重機作業が不要になります。



施工性に優れたリサイクル埋め戻し材「ポリソイル」



製品の海上輸送と太陽光パネルの設置

車両輸送に比べてCO₂排出量が25%少なく、年間約150t分の輸送エネルギーを低減できる海上輸送により、再生土「ポリアース」の搬出を行っています。ポリアースの製造設備から保管倉庫、船の停泊場所まで密閉式コンベアーで運び、車両での運搬を排除す



保管倉庫から船舶へ再生土の搬出を行う専用バース（停泊場所）



保管倉庫の屋根を利用しソーラー発電を行う

環境にやさしい循環資源、 再生土「ポリアース」

建設汚泥を分級、固化し3連の磁選機等で異物を除去した再生土。今後、再生砕石（RC-40）と混合し、締め固めしやすい「ハイブリッドソイル」として用いられます。



造成地の盛土等に用いられる再生土「ポリアース」

質の良いリサイクル製品を製造する！

流動化処理土「ポリソイル」を製造するためには、大量の水が必要です。従来、近隣地域や泉大津の浄水場から車両で搬入していましたが、海水淡水化装置の導入によってプラント内で用水を調達できるようになりました。そもそも、「ポリソイル」「ポリアース」は環境にやさしいリサイクル製品であり、建設汚泥を最終処分場へ輸送することなく、建設現場へ循環することができます。つまり、CO₂排出量の削減にも貢献する製品です。

2011年に堺プラントへ異動して、ポリソイル製造の立ち上げ担当者となり、試行錯誤しながら取り

組んできました。現場での施工にも数々立ち会いました。「基準値以上にいい製品を！」とスタッフみんなで奮闘し、その甲斐あって「製品が安定していて扱いやすい」という評価をいただいています。若いスタッフには「自信を持って仕事し、良いものを作ろう」と常々声をかけています。

大阪ベントナイト事業協同組合
堺プラント
工場長 山田 修一



カーボンニュートラル実現に向け「CO₂固定・建設汚泥再生土」の研究開発から実践に進化

大幸グループの「CO₂固定・建設汚泥再生土」

建設汚泥固化処理において、セメントだけでなく空気も一緒に混ぜ込むように混合すると、蒸発により 1～3% の水分量削減となり固化材使用量が削減できます。大阪ベントナイト事業協同組合 堺プラントでは、ハイブリッドソイルの原料となる再生土「CO₂固定・建設汚泥再生土」を実践に進化させる試みが進められています。堺プラントは、搬入される建設汚泥に、セメント

を混ぜて空気に含まれる CO₂ガスを接触させ炭酸塩化反応を促し、CO₂を再生処理土に固定化させることが可能なプラントです。このため、北海道大学 教授 北垣亮馬氏ら学識経験者の皆様と一緒に、炭酸化を受けた再生処理土中の CO₂含有率評価に向けた分析方法の検討を研究してまいりました。

令和 2 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日まで 5,477t の CO₂を固定

大阪ベントナイト事業協同組合 堺プラントは、堺市より優良産廃処理業者認定制度における認定（第 06720004668 号）を受けております。このため、事業の透明性を図るために年度ごとに実績の報告を行っています。令和 2 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日まで製造した建設汚泥再生土累計は 304,313t です。コンクリート 1 立米 (2.2 トン) で最大で 100kg の CO₂を

固定します。CaCO₃量だと 227 kg 析出します。このため、示差熱分析 (TG-DTA) からセメント固化処理で生じた CaCO₃量を計算すると CO₂固定量が算出できます。このため、累計 304,314t のセメント固化処理に対して 5,477t (約 2,000 所帯分) の CO₂を固定したことになります。

安全安心な 0 円 /t-CO₂の CO₂排出量削減技術

CaCO₃ (炭酸カルシウム) は約 600～800℃付近まで加熱しない限り酸化カルシウムと二酸化炭素に分解されることはありません。二酸化炭素回収・貯留 (CCS) のコストが 6,186 円

/t-CO₂～7,261 円 /t-CO₂に比べ、大幸グループの「CO₂固定・建設汚泥再生土」は、建設汚泥に、空気を混ぜ込むだけなので安全安心な 0 円 /t-CO₂の CO₂排出量削減技術です。

トレーサビリティが確保された CO₂固定再生処理土モデル

堺プラントは、産業廃棄物管理票 (入荷量開示)、優良認定処理業者 (出荷量開示)、再生品の有価物該当性の審査認証取得 (SDA01001)、ISO 認証取得 (信頼性統括管理) で品質の安全安心とトレーサビリティが確保されています。

大幸グループの CO₂固定・建設汚泥再生土は、業界初のトレーサビリティが確保された CO₂固定再生処理土モデルとして、CO₂固定の推進と精度の向上を図り、カーボンニュートラルに貢献していきます。

また同時に、CO₂固定推進と、CO₂定量と精度向上第三者委員会を発足し、最終処分場 CCS 覆土やハイブリッドソイル CCS 盛土など用途拡大を図ります。

そして、地域の子どものための学校教育に楽しく、温室効果ガス (GHG) である二酸化炭素を知り・体験する催しを開催し、温暖化防止対策の啓発活動を続けていきます。



固化再生施設 (屋外部分) 大型集塵機等



製品倉庫へのベルトコンベア



大阪ベントナイト事業協同組合 堺プラント 航空写真

なぜ、中空・泥だんごで体感観察、探究科学するのですか？

水惑星地球を目指して、中空・泥だんごで体感観察、探究科学すれば、点と点が線で繋がり、面と面がいずれ立体となり、中空・泥だんごが水惑星地球と繋がります。

しかし、教科書に書かれた自然環境教育だと、その狭いルーチングワークの中だけに留まり、水惑星地球が抱える環境問題解決までたどり着くことができません。いま、地球温暖化などの環境問題を俯瞰するために、中空



◆京都ノートルダム女子大学 中空泥だんご出前教室を開催

大幸グループでは 2023 年 5 月 30 日、京都ノートルダム女子大学 講師 佐藤 真太郎先生指導による中空泥だんご出前教室を開催しました。地盤工学会関西支部から大阪大学大学院 教授 乾 徹氏、大阪大谷大学

教授 地下まゆみ氏を講師として派遣して頂きました。大幸グループのダイバーシティ & インクルージョン推進により、泥だんご大使 そうま博士も参加し、一緒に楽しく泥だんご教室を体感観察して頂きました。



◆高学歴の若者たちによる CSR 報告書の評価

大幸グループでは、2019 年から国連採択 SDGs や ESG 金融投資基準や、若者の環境意識の高まりを見据えて、CSR 報告書の見直しを行っております。

そして、CSR 活動の内容を項目ごとに、E (地球環境)、S (地域社会)、G (企業統治) の 3 分野に選別。さらに、PRB (責任銀行原則) の基準に即した考えを取り入れ、項目ごとに SDGs17ゴール・169 ターゲットを

紐づけしています。

このように改定した CSR 報告書を、泥だんご教室や泥学講座の前に、大学の学習教材として使用して授業を行い、アンケート調査に答えてもらっています。この調査結果により、第三者の有識者による審査だけでなく、高学歴の若者たちからも、CSR 報告書の評価を受けています。

◆大学生を対象にした泥学講座の授業を開催

2023 年 1 月 11 日、大阪大学 教授 乾 徹氏の指導で、応用地学の履修講座の一環で工学部、3 年生を対象にした泥学講座の授業を開催しました。授業の前に CSR 報告書を配布、大幸工業株式会社 浜野真季常務取締役による高レベル放射性廃棄物地層処分において用いられる緩衝材 (ベントナイト) が膨潤・自己シールする実験を交えながら、楽しく授業を終えました。



特集 2 新時代に向けて

未来に向けた多様な取り組みで 環境保全、社会・地域貢献を目指す

グループを挙げてガバナンスを強化

コロナ禍の収束化に伴ってさまざまな規制が緩み、各方面で新たな取り組みが進められています。大幸グループでは、これまで以上に、お客様の信頼を得て持続的に成長する企業グループとなるため、ガバナンス（内部統制）の強化に取り組んでまいります。コロナ後の新時代に入り、グループ全体が方向性を一つにして、自ら考え発言できる組織づくりを推進します。

大幸グループは、社員一人ひとりが環境保全や地域社会への貢献を認識して行動することを大切にしています。



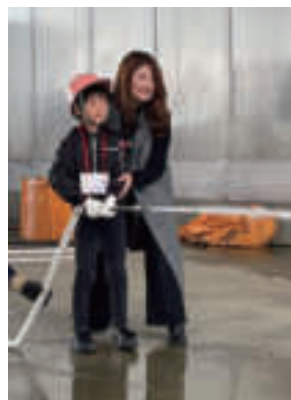
大幸工業株式会社 常務取締役
大阪ベントナイト事業協同組合 理事

浜野 真季

地域の防災・防火活動を活性化

大規模災害から、従業員と地域の皆さまを守るため、大幸グループでは 2019 年 12 月に「津波避難ビル兼車輛センター」を建設し、地域と協働で防災訓練（KTK 防災対策実行委員会主催）を実施しています。こうした活動が認められ、大阪市消防局よりお声がけいただいて、2023 年 3 月に「消火廃液運搬の協定」（大幸工業株式会社）および「消火廃液受入れの協定」（大阪ベントナイト協同組合）、また 10 月に「土砂埋没災害時における消防活動への協力に対する協定」（大幸工業株式会社）を、同消防局と締結しました。

一方、2023 年 11 月には、大幸工業株式会社と住之江消防署が合同で「大幸グループ防災フェスタ」を開催。子どもを含む地域の皆さんが、はしご車の乗車訓練、初期消火訓練などを体験。防火・防災意識を高めると共に、子どもが「自ら考える力を養う」機会となりました。



北欧ブランド車両「スカニア」導入

環境先進国の一つ、スウェーデンに本拠地を置き、世界有数の大型トラック生産台数を誇るスカニア。高燃費、快適な居住性でも知られ、高級ブランドとして乗務員の憧れとなっています。ドライバーの意欲を刺激し、お客様へのサービス向上にもつながる新たな方策、また、CO₂削減の取り組みとして試験的に導入しました。車両の塗装デザインやカラーリングにもメッセージ性を込め、「To the future with friends（共に未来をつくろう）」という文字を施しました。タンクローリーでのスカニア導入は極めて珍しいとのこと、業界でも耳目を集める存在になると考えています。

そのほか、車種グループごとの安全ディスカッション制度を設けるなど、運輸関連の教育制度を充実させ、成果を上げています。



全産連・大産協 女性部の活動に参加

2023 年 6 月に公益社団法人 全国産業資源循環連合会 女性部協議会 第 1 回通常総会が、東京・明治記念館で開催され、参加をさせていただきました。16 地域から 50 名が来場し、環境省廃棄物規制課課長補佐 影山凡子氏とのトークセッションも実施されました。会場で皆さんと交流を深め、良い刺激やヒントを得る機会となりました。

同年 4 月に、公益社団法人 大阪府産業資源循環協会 女性部が発足され副部長の任を拝命し、樋口かこの部長、山口珠緒副部長、部員の皆さまと共に、視察や研修会へ参加しています。女性同士で、経営サイドの視点で話をしたり、子育てと仕事の両立について意見を交わすこともでき、公私両面において貴重な時間となっています。



連合会 女性部 第 1 回総会

多彩な地域活動を展開

5 年ぶりの開催となる「KTK 道路清掃美化キャンペーン」（KTK 主催）など、2023 年は地域の皆さまとの協働イベントが相次ぐ年となりました。例年 2 回、平林福祉会館で行う「寄せ植え教室」、盆踊り大会（さざんか平林協議会主催）への参加といった継続的な活動のほか、新たに「大幸グループこどもベジタブル・ガーデン」を車輛センターの敷地内に設け、子どもたちと共にサツマイモの植え付け、収穫を行いました。

今後も大幸グループは、環境保全や地域社会への貢献にまい進いたします。何卒、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



ベジタブル・ガーデン

乗務員の意欲向上とCO₂削減を目指し、 環境先進国のブランド「スカニア」導入

運輸部ドライバーのモチベーション向上と、環境への負荷軽減のため、環境意識の高いスウェーデンを拠点とするスカニア社の車両を導入しました。乗務員の働きやすさを重視した設計は顧客へのサービス向上につながり、高い燃費性能はカーボンニュートラルの実現にも寄与するものとして、試験的にタンクローリー車を導入、2023 年 10 月 6 日に車輛センターで納車式を行いました。新時代に向けた取り組みの一環であり、外装（ラッピング）デザイン・色彩にも未来志向のコンセプトを込めています。



コンセプトデザイン「共に未来をつくろう」

ガンメタリックなボディカラーは、当社のプライドと品格を表すシックな色合い。フロントにはモノトーンで「DAIKO」「SCANIA」のロゴ、サイドとけん引部には真っすぐ未来を目指して飛翔するシャープなモチーフを施し、安心・安定を感じ

させるコーポレートカラーの青色を配しています。けん引部の社名ロゴにはカーボンの地模様を入れ、その後部に「To the future with friends (共に未来をつくろう)」というメッセージを印字しました。



「スカニア」乗務員を発表



SNS 広報隊がオリジナル T シャツで集合

ドライバーの憧れの的、スカニア導入を提案



運輸部／係長 土井 良介



整備／係長 中戸 久男

資材不足等で、国内メーカーによるトラクターヘッドの供給が滞り、車両計画を進めるための打開策として、スカニア導入を提案しました。大型車を運転するドライバーであれば、誰も「一生に一度は乗りたい」と憧れるブランドです。長距離輸送が増えるなか、乗務員のコンディションを保つための車内設備は重要です。また、燃費がよい車両は環境保全に寄与します。タンクローリーでのスカニア導入は非常に珍しく、対外的なインパクトも大きい。会社のステイタスを向上し、社内に新風を運ぶ存在になるだろうと、浜野常務が導入へと熱心に動いてくださいました。私たちも、この車両がグループ各部門に刺激と活気、相乗効果をもたらすようお願いしています。

必ず注目される車両。見本となる運転に努める



運輸部／統括リーダー大倉 隆伸

大阪・南港エリアでも、大型 100 台に 1 台ぐらいの割合で、スカニアの車両を見かけるようになりました。カッコいい車だと思うので、ドライバーに指名され嬉しかったですね。今、納車式が終わったばかりで、性能を体感するところまで走ってはいませんが、すーっと静かな音で発進し、馬力を秘めているような感じがします。泊まりの際に使うベッドも広く、乗り心地のよさは異次元ですね。スカニアは原色や白の車体が多くて黒系は珍しく、間違いなく目を引く存在になるでしょう。車体の「DAIKO」ロゴに恥じない運転を心がけ、洗車や手入れに努めようと思います。これを契機に、社内のみんながより良い方向へ進めるよう、まず自身が頑張ります。

災害時における消防活動への協力として 大阪市消防局と災害協定を締結



近年、気候変動の影響などから自然災害が数多く発生しています。大幸グループは、土砂（泥）・がれき・液体などの収集運搬・中間処理・再利用に関する事業ノウハウと車両・設備を保有することから、大阪市消防局の要請を受け、災害時における消防活動への協力に関する協定を、2023 年に締結しました。消防局と企業による、こうした内容の災害協定は全国初のモデルケースとなります。土砂埋没時の人命救助など、災害時の消防活動は時間との戦いであり、大幸グループの技術を用いて社会・地域の安心・安全に貢献していきます。

<2023 年 3 月 30 日>

消火廃液の協定（大幸工業株式会社） 消火廃液受け入れの協定（大阪ベントナイト協同組合）

脱炭素社会に向け、電気自動車（EV）の普及が進んでいますが、リチウムイオン電池を搭載した EV は、火災に遭うと車体ごと水に浸け、数十時間を経過しなければ消火することができません。災害時における消防活動への協力として、EV の消火に用いた水槽内の水を吸引して運搬し（大幸工業株式会社）、中間処理を行う（大阪ベントナイト協同組合）協定を締結しました。



<2023 年 10 月 26 日>

土砂埋没災害時における消防活動への協力に対する協定（大幸工業株式会社）

土砂災害による人命等の救助に向け、大幸グループが保有するブロアー車（強力吸引車）により土砂（泥）の吸引を行い、消防活動に協力する協定を締結しました。これまで、サイロ内等で人が土砂に埋まったとき、同消防局ではスコップや小型ショベルカーで救助活動

を行っていましたが、ブロアー車を用いて検証すると、作業時間を約 5 分の 1、人員を約 3 分の 1 に縮小することができ、協定締結を実現することができました。※今後も、同局と協働で訓練を行い、連携を強固なものとして緊急時の即戦力となるよう取り組んでいきます。

※8月2日に当社のブロアー車を用い、舞洲で消防活動の検証を実施。こうしたデータをもとに協定が実現しました



大阪市消防局 警防部長
藤田 吉仁 氏

大きな災害は我々の予想を超えた被害をもたらし、行政のなしうる活動には限界があります。民間の協力が必要であり、この協定を入口として進めていきたいと思っています。大阪市消防局は各地への災害派遣における経験値が高く、今回の協定も先駆的な取り組みとなりました。全国に広がる契機となれば、と考えています。

【大阪市総合防災訓練実動訓練に参加】

例年、大阪市が実施している総合防災訓練実動訓練は、大規模地震の発生に備え、防災関係機関等との連携体制を強化するための訓練です。2023 年は 11 月 18 日に舞洲消防訓練用地で行われ、大幸グループのブロアー車も要請を受けて参加しました。当日は、大阪府警、医療機関、大阪市消防局・建設局などにより、救出訓練や医療救護訓練、道路啓開訓練が行われました。

なお、大幸グループはブロアー車 20 数台を保有しており、出動要請時には消防局から大阪府警に連絡が送られ、パトカーの先導で現場へ向かうことになります。



2023年 大幸グループ防災フェスタ開催



2023年11月23日、大幸グループ代表・浜野廣美が「参加者の防火・防災意識を高め、子どもたちが自分で考え行動する機会としたい」と述べ開会した「2023 年大幸グループ防災フェスタ（以下「防災フェスタ」）。当社の拠点地域にある平林小学校などの子どもと保護者約 80 人が「津波避難ビル兼 車輛センター（以下「避難ビル」）に集合し、大阪市住之江消防署の全面協力により、5つのブースで防災プログラムを体験しました。

その前身は、2018 年 11 月、「避難ビル」建設着手を機にスタートした「防災訓練（KTK 防災対策実行委員会主催）」5 回目となる 2022 年は、さざんか平林協議会（住之江区）、住之江区役所、住之江消防署との協働による

「合同防災訓練」として実施し、今回の「防災フェスタ」に発展する礎石となりました。

防災フェスタは、①地域の皆さまに「避難ビル」を知っていただくこと、②子どもたちが自ら考える力、人間力を養うよう導くこと、③イベントを通じて、地域・消防・当社従業員が顔見知りとなり、避難行動の迅速化を図ることを目的とします。子どもの自主性を重んじ、参加者に「来てよかった」と感じていただける有意義なイベントを目指しており、住之江消防署と協議を重ねて下記《第 1 部》《第 2 部》の各プログラムを作成しました。

大幸グループは、こうした取り組みを通じて、今後も「防災に強いまちづくり」に貢献していきます。

《第 1 部》一般参加

消防署の「はしご車」乗車体験を実施するほか、スタンプラリー形式で、「ミニミニ消防車（バッテリーカー）」「けむりテント」「水消火器」「ミニ消防車放水」の各体験ブースを自由にめぐるプログラム。スタンプ 3 個以上でプレゼントを贈呈しました。各ブースで消防士の方々に指導をいただき、楽しみながら消防・防火活動を学ぶことができました。

■はしご車の乗車体験
はしごが高く伸び、火災フロアへ放水できる仕組みです



《第 2 部》総合消火訓練（ジュニア防災ミッション）

幼児から小学 6 年生までの 4～5 人で小隊を編成、年長の小隊長が指令を出し全員で考えながら、4つの消火・防災ミッションを成し遂げます。身を守るための避難の法則「お・は・し・も（押さない・走らない・しゃべらない・戻らない）」をはじめ、消火器の使い方、大人

に救助・協力を求める実践訓練など、さまざまな学びの要素が含まれています。終了後、袋井住之江消防署長から各小隊への講評をいただき、全員にプレゼントを贈呈しました。



■ミニミニ消防車（バッテリーカー）
火災指令を受けて、出動です！



■けむりテント
年長者が年少者の手を取り、壁づたいに避難しました



■水消火器
水の入った消火器で標的（火）を倒し、消火器の使用方法を学びます



■ミニ消防車放水
消防士に協力してもらい、ホースで標的（火）を倒しました

<子どもたちの感想>

みんなをまとめるのが大変！名前を覚えて、大きな声で話した（11 歳）

煙デントが怖かった（7 歳）

水消火器のブースが楽しかった（8 歳）

おもしろかった（6 歳）

来賓からひとこと



行政・企業・地域の力を一つに
大阪市消防局 住之江消防署長 袋井 洋一 氏

大災害が発生したとき、行政の力には限界がありますが、自治体・民間企業・地域の力を一つにすることで、立ち向かうことができます。このイベントを通して防火・防災の総合力を培い、大切な命を守るため共に努力していきましょう。



体験的な学びが未来につながる
KTK 防災対策実行委員会委員長 乾 徹 氏

「避難ビル」の柱には津波によって起こる予想浸水位置などが記されています。その「避難ビル」での催しを通じ、子どもたちが体験的に防火・防災の総合力を身につけることはとても大切。娘も参加し、興味を持って取り組んでいました。



大幸さんと共に地域を明るく！
さざんか平林協議会会長 松浦 正明 氏

会場となった建物は、地域の「避難ビル」を兼ねた施設として建築されました。大幸グループの代表とは長いお付き合いになりますが、常に「地域のことは地域で」と安全な暮らしに配慮されています。共に明るいまちづくりを目指したいですね。

コロナ禍の規制緩和を受け、 多様な地域貢献・協働活動を展開



大幸グループはリサイクル土を利用することにより循環経済を構築、CO₂削減によりカーボンニュートラル実現に寄与しています。その事業は地域の理解や信頼を基盤とするもので、長年にわたり地道な地域貢献活動に努めてきました。コロナ禍の規制が緩和された 2023 年度は、前掲の地域防災活動に加え、「こどもベジタブル・ガーデン」などの取り組みをスタート。従来の寄せ植え教室を継続的に開催するほか、コロナ禍で中止していた道路清掃美化キャンペーンや盆踊り大会支援活動も再開しました。

津波避難ビルの周知、食育等を目的に「こどもベジタブル・ガーデン」開設

未来を担う子どもたちと、保護者の皆さんに大幸グループ「津波避難ビル」の存在と場所を認識していただき、緊急時の避難行動につなげるため、ビルの敷地内に「こどもベジタブル・ガーデン」を設置しました。子どもたちの環境学習、食育の一環ともなる取り組みです。

初年度の 2023 年は、避難時の非常食としても役立つサツマイモを栽培し、5 月に植え付け、10 月に収穫を行いました。大小のサツマイモを掘り上げた子どもたちは、いきいきとした表情を見せていました。



【2023 年 5 月 27 日の植え付け】



従業員も笑顔の収穫



お母さんとサツマイモの苗を植えつけました



たくさん収穫できました



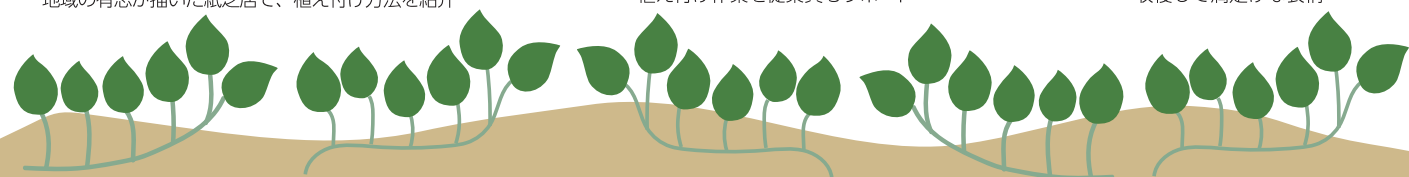
地域の有志が描いた紙芝居で、植え付け方法を紹介



植え付け作業を従業員もサポート



収穫して満足げな表情



子どもたちに収穫方法を指導



青々と成長した菜園のサツマイモ



【10月28日の収穫】

地域のハロウィン行事に協賛

大幸グループは、「地域みんなで子どもを育てよう」という、さざんか平林協議会(大阪市住之江区)の「ひら子屋」活動に賛同し、2023年11月2日、仮装して地域を歩くハロウィン行事の際、訪れた100名の子どもたちにお菓子を配りました。大幸工業株式会社の車輛センター入口にハロウィンの飾りつけを施し、子どもたちが到着すると撮影スポットで写真を撮るなど賑やかなお祭りムードに包まれました。



平林納涼盆踊り大会

大幸グループでは、地域文化・芸能の伝承と交流を目的に、さざんか平林協議会主催で開かれる盆踊り大会に参加しています。2023年8月19日、会場の平林福祉会館前広場に従業員が集まり、かき氷屋台のスタッフとしてイベントを盛り上げました。



子ども会の体育事業後援

地域の子どもの健全なライフスタイル育成、平等で平和な文化の推進を目指し、住之江区子ども会育成連合協議会体育事業に賛同、後援を行っています。同事業は各種目で活発に活動が続けられており、大幸グループもソフトボール大会、キックベースボール大会の開会式などに出席し、子どもたちの健康増進と成長を応援しています。





KTK 道路清掃美化キャンペーン コロナ禍を経て5年ぶりに開催



大幸グループが中心となって取り組んでいる KTK 道路清掃美化キャンペーン（環境対策協議会主催）は、環境について考え、安全・快適なまちづくりに貢献する取り組みであり、子どもたちを含む地域全体の生涯学習の場となっています。2004 年（平成 16 年）にスタートし、コロナ禍による中断を経て、2023 年 10 月 29 日に実施。清掃エリアを本拠地（大幸工業株式会社 車輛センター）に近い東側に移したことなどから

参加人数を絞り、280 人余りでの開催となりました。当日は好天に恵まれ、大幸グループ、KTK 会員企業の社員・家族に加え、地元町会や自治体、その他賛同の方々、心を一つにして 4tトラック 3 台分のごみを回収。清掃終了後は車輛センターで懇親会を行い、焼きそばやおでんに舌鼓を打ちました。子どもたちは、この日の感想を文章や絵で描き、ごみの多さや環境について家族と共に考える 1 日となりました。



第 16 回は、建て替え後の車輛センターを拠点に開催



開催にあたり、浜野廣美会長が挨拶



7 班に分かれ、歩道や緑地帯を清掃
幼児から高齢層まで協働し地域を美化



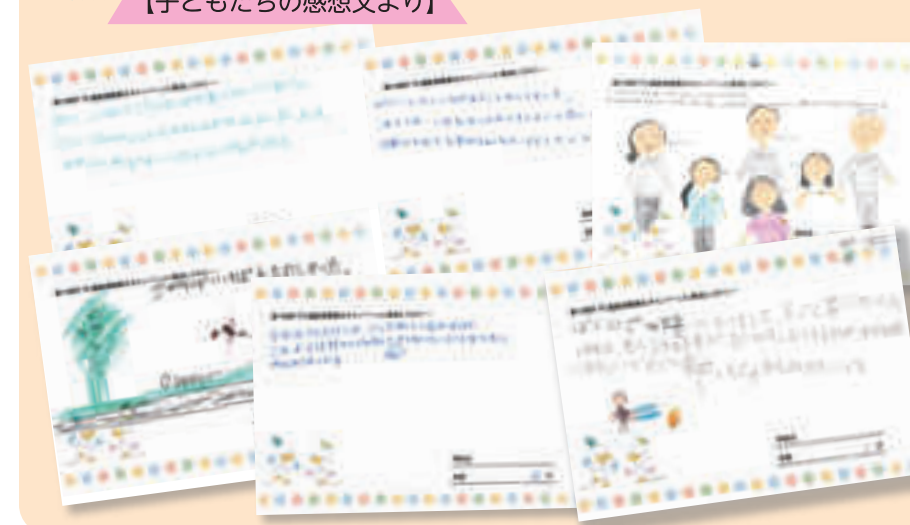
4tトラック 3 台分を回収



【清掃終了後の懇親会】



【子どもたちの感想文より】



感想文や絵を描く子どもたち



地域の皆さまと交流し、絆(きずな)を深める 第21回・22回「寄せ植え教室」開催



例年2回、平林福祉会館で継続的に開催している地域の「寄せ植え教室」。2022年12月で21回、2023年5月で22回を数えました。コロナ禍のもと、さざんか平林協議会と従業員が協働して感染対策を行い、少人数のアットホームな雰囲気で実施しました。

第21回(冬)は、華やかな色彩の花々で寄せ植えを行い、春を呼ぶような暖かい雰囲気に包まれました。第22回(春)は、前年も好評を得た多肉植物を数種、かわいい

陶器の鉢に寄せ植えしました。当時、すでに新型コロナウイルス感染症が5類に移行しており、住之江区役所や住之江警察署、住之江消防署からもご参加いただくことができました。

寄せ植え教室は、エコリサイクル土を使った環境学習として、また共になごやかに過ごすコミュニケーションの場として定着しています。今後も地域の皆さまと共に、サステイナブルな環境活動を続けていきます。



色とりどりの花を使った第21回の教室



講師から寄せ植えのコツを教わる参加者



住之江警察署の方々



住之江区役所・住之江消防署からのご参加



2022年12月21日 第21回「寄せ植え教室」



2023年5月22日 第22回「寄せ植え教室」

グループ全体の持続的成長を目指し 一人ひとりが考え、提案する組織へ！



大幸グループは、顧客の信頼に応える組織としてガバナンス強化に取り組み、一人ひとりの自発的な提案、挑戦を応援して持続的成長を目指していきます。労働安全衛生、リスクアセスメントへの取り組みを一層、強固なものとし、安全講習など研修制度の充実を図っています。また、挑戦する人への支援と成果に対する正当な評価を推し進めています。

そして、各自のモチベーション向上につながる各種の表彰制度、多様な人材が安心・安全に働くための定年後の継続雇用制度、育児・介護休暇制度、資格取得サポートなど、福利厚生の実施に努めています。

2023年6月9日、南港処理センターの賀戸貴之工場長が、公益社団法人大阪府産業資源循環協会「優良従事者表彰」を受賞しました。



グループ内表彰

大幸グループでは、長く職場の戦力として実績を積んだ従業員に対し「永年勤続表彰(10年・20年・30年)」を行っています。また、定年退職者に、親睦会より感謝の気持ちを込めて記念品を贈呈しています。

さらに、働きがいのある職場づくりに向けて、「優良従業員表彰」「優良乗務員表彰」および、洗車に特別努力した乗務員へ「車両ぴかぴか賞」の表彰を実施しています。



30年勤続表彰

左から
●加藤 憲司 ●山崎 敏明 ●荻野 光男



優良従業員表彰

左から
●片石 浩啓 ●江尻 佳苗 ●竹中 久美子



優良従業員表彰

●〈欠席〉桑本 進次 (代理) 賀戸 貴之
●中道 由紀子



優良乗務員表彰

●稲 翔平

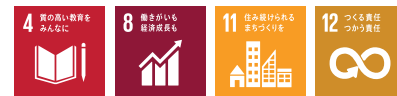


車両
ぴかぴか賞

左から
●松原 国男 ●浦部 竜一
●〈欠席〉金永 裕樹 (代理) 土井 良介



共通の課題や情報を共有し、 持続可能な開発をめざす



1994年、大阪ベントナイト事業協同組合と、その施設利用企業や、つながりの強い企業などが、大同団結と資質向上をめざして「大阪ベントナイト事業協同組合 環境対策協議会 (KTK)」を設立しました。現在、会員として108社(2023年12月現在)が参加しており、多様な力を集約して環境問題や廃棄物処理業界の課題を共有し、会員の技術・知識、モチベーションの向上に取り組んでいます。2023年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、ほぼコロナ禍前の活動状況に戻り、総会・講演会・施設見学会など活発な取り組みを展開しました。

2023年 活動内容

●令和5年度 第30回通常総会(4月13日)



●優良従業員表彰



●ISO等環境認証取得企業

●講演会

講師：浄土真宗本願寺派
布教 名種 木乃実 氏
・テーマ「*縁、ということ」



●第23回ゴルフコンペ(5月26日)



●第24回ゴルフコンペ(11月14日)



●夏期研修会(7月14日)



●施設見学会(9月8日～9日)

三重中央開発株式会社(三重県伊賀市)



●企業 PR

伏見クリエイト(株)
「木くずのリサイクルについて」
文 祐基 氏



(有)トラックアズマ
「事業紹介」
上垣 聡 氏



●講演会

講師：大阪市消防局 予防部予防課
担当係長(防災指導)
消防司令 住野 敬信 氏



●ボランティア活動…第16回KTK道路清掃美化キャンペーン (10月29日)

【環境対策協議会 青年部】

会員各社の次期社長候補を中心に構成する青年部では、研修会・見学会等の活動を通して、相互理解・共栄発展・モチベーションアップを目指します。

活動内容

●令和5年度 第30回総会(4月13日)



●施設見学会 株式会社レックス九州(11月2日・3日)



●KTK 青年部研究会(8月4日)



●KTK青年部ゴルフコンペ(10月3日)



定年後の継続雇用・嘱託就業

少子高齢化に対応した、大幸グループ全体の成長力確保、働き方の多様化を鑑みて、定年後の単年契約による再雇用に加え、65歳以降の継続雇用延長を実施しています。技術と知識を次世代へ伝承する定年後の

人材は、事業を支える大きな力であり、従業員それぞれの希望を考慮しながら再契約を更新。各自の経験や能力・役割に応じた活躍を期待して、後進へ技能・知識・マンパワーを引き継ぐ環境づくりに努めています。



継続雇用制度を利用し、各部署で活躍

◆役目を無事に終えてプラントへ

総務部→堺プラント
山田 泰彦



代表取締役・理事の運転手として、朝晩等の送迎、車両点検、総務業務などを担当し、何とか約15年間、無事故無違反で務めることができました。代表が弟のように親しく接して下さったおかげだと感謝しています。助っ人として勤務したこともある堺プラントへ移り、体の続くうちは続けるつもりです。

◆後輩への業務継承にも努めます！

南港処理センター 受付
大迫 智子



1996年に入社し、運輸部で配車などの業務を行い、その後、堺・泉プラント、南港処理センターで受付を担当してきました。トップ以下、皆さん気さくで楽しく過ごせたのが、長く続いた理由です。車の出入りが立て込むと大変ですが、持ち前の大きな声と明るさで、若い人に業務をしっかり継承していきます。

◆今後もお役に立てるよう頑張ります

運輸部 ドライバー
大手山 徳洋



2013年に入社して以来、ダンプを運転しています。それ以前はトラックのドライバーだったので、荷の積み降ろしも担当していました。ダンプの場合は油圧ショベルで積んでもらい、運転席のレバーで積荷を降ろしており、そこが主な違いです。若い頃から運転一筋ですので、もう数年、お役に立ちたいと思っています。

◆さまざまな運転経験を活かして

運輸部 ドライバー
下水流 章



入社後1年ほどダンプに乗り、そのあと15年余りプロアー車、そして10年ほど前からベッセル車を運転しています。辞めたと思ったことは一度もありませんね。何人か、後輩の横に乗って指導をしましたが、一通り手順を教えた後は自分で考えてもらう。どれが正しい、というものではない仕事だと思っています。

乗務員研修の新たな取り組み



2022年からドライブレコーダーの事故事例など動画を用いた乗務員研修をスタートし、法定12項目の指導・監督に用いています。2023年は、視聴後の設問回答を添削して本人に返却する取り組みを始めました。誤りや思い込みを正し、安全運転につなげることが目的です。

また、同年4月から、事故事例の情報を共有するため、車種グループ全員でRCA分析（根本原因分析）を実施。「なぜ」を繰り返すことで、当時の状況やドライバー心理を探り、対策につなげる取り組みです。意識の向上や安全確認の徹底により、事故縮小の効果を上げています。

従業員研修

大幸グループでは、入社後3カ月間、全部署の業務を学ぶ新入社員研修、管理職による大幸未来育成会をはじめとしたセクションごとの研修、各プラントを統括する視点を育み相互活性化を図るプラント人材交換制度等、これまでに取り組んできた様々な活動を通し、各分野の人材育成に尽力しています。また、公正採用選考人権啓発推進員の新任・基礎研修への参加等により公正公平な職場環境を促進。事故や課題の共有化によって、より安全な勤務体制と、風通しのよい環境づくり、一人ひとりの資質向上・成長を目指しています。



健康診断と人間ドック

若年から壮年、熟年に至るすべての従業員の健康と福利厚生を推進するため、大幸グループでは健康診断（特定健診・特定保健指導）に加え、人間ドックの利用促進にも力を注いでいます。これらは、疾病・潜在疾患の早期発見、予防、適切な治療への導線となるものです。人間ドックは、従業員の高額負担抑制に向け大部分を補助し、気軽に利用できる体制を整えています。

また、働き方改革の一環として、有給休暇の取得しやすい環境づくりを促進し、有意義な休暇と休息による心身の健康増進と、生産効率の向上を目指しています。



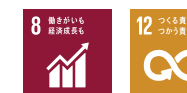
資格・免許取得サポート

車輛センターで安全・確実な輸送を管理する運行管理者や、プラントにおける重機オペレーターの各種資格・免許の取得を支援するため、研修への参加費や、資格試験・免許取得に関する費用負担を実施しています。資格・免許の取得は、業務的な必要性ばかりでなく、個人の技能を伸ばし、成長を促すため、大幸グループを挙げて推奨しています。



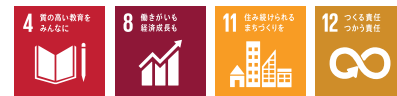
大幸グループ通信

大幸グループ全体の情報共有を目的とした情報誌を、隔月サイクルで刊行しています。掲載内容は、私たちが関わる環境事業の現況と今後の方向性、地域の情報、行政の指導や指針の紹介、関連企業の最新情報など。すべてのスタッフと、その家族に向けて、環境事業内容と目指すベクトルについて広報を行い、グループ・関連企業の一体化和環境意識の啓発に努めています。





共通の課題や情報を共有し、 持続可能な開発をめざす



1994年、大阪ベントナイト事業協同組合と、その施設利用企業や、つながりの強い企業などが、大同団結と資質向上をめざして「大阪ベントナイト事業協同組合 環境対策協議会 (KTK)」を設立しました。現在、会員として108社(2023年12月現在)が参加しており、多様な力を集約して環境問題や廃棄物処理業界の課題を共有し、会員の技術・知識、モチベーションの向上に取り組んでいます。2023年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、ほぼコロナ禍前の活動状況に戻り、総会・講演会・施設見学会など活発な取り組みを展開しました。

2023年 活動内容

●令和5年度 第30回通常総会(4月13日)



●優良従業員表彰



●ISO等環境認証取得企業

●講演会

講師：浄土真宗本願寺派
布教 名種 木乃実 氏
・テーマ「*縁、ということ」



●第23回ゴルフコンペ(5月26日)



●第24回ゴルフコンペ(11月14日)



●夏期研修会(7月14日)



●施設見学会(9月8日～9日)

三重中央開発株式会社(三重県伊賀市)



●企業 PR

伏見クリエイト(株)
「木くずのリサイクルについて」
文 祐基 氏



(有)トラックアズマ
「事業紹介」
上垣 聡 氏



●講演会

講師：大阪市消防局 予防部予防課
担当係長(防災指導)
消防司令 住野 敬信 氏



●ボランティア活動…第16回KTK道路清掃美化キャンペーン (10月29日)

【環境対策協議会 青年部】

会員各社の次期社長候補を中心に構成する青年部では、研修会・見学会等の活動を通して、相互理解・共栄発展・モチベーションアップを目指します。

活動内容

●令和5年度 第30回総会(4月13日)



●施設見学会 株式会社レックス九州(11月2日・3日)



●KTK 青年部研究会(8月4日)



●KTK青年部ゴルフコンペ(10月3日)



環境負荷に対する活動の目標と実績

地球環境の将来を考え、その基盤となる事業を推進する企業として、事業推進で生じるさまざまな環境負荷に対しては、全社、あるいは事業所、部署ごとでの課題を抽出し、年度ごとの取り組みを進めています。



2023 年目標とその成果

部門	目 的	目標値	具体的実施方法	評価
南港処理センター	無事故無災害を目指す	1年間無事故無災害	順守事項の徹底・類似事故再発防止	★★★★
	河川水使用量の削減	月間使用量を目標値までに抑える	構内散水の節約・放流水の制限	★★★★
	法規制の順守	下水排水規制値を順守する	内部分析・外部分析	★★★★
	法規制の順守	埋立基準値を順守する	内部分析・外部分析	★★★★
	地域との共存共栄の推進	近隣からの苦情ゼロを目指す	工場付近の定期清掃・近隣の意見を聞く	★★★
泉プラント	無事故無災害を目指す	1年間無事故無災害	順守事項の徹底・類似事故再発防止	★★★★
	作業員のレベルアップ	社外研修の参加	設備に合わせた社外研修の実施	★★★
	薬品使用量の削減	薬品使用量を目標値までに抑える	処理手順の見直し・サンプル実験の実施	★★★
	法規制の順守	埋立基準値を順守する	内部分析・外部分析	★★★★
	地域との共存共栄の推進	近隣からの苦情ゼロを目指す	工場付近の定期清掃・近隣の意見を聞く	★★★
堺プラント	無事故無災害を目指す	1年間無事故無災害	順守事項の徹底・類似事故再発防止	★★★★
	設備機器の理解	1つの設備ごとに見直し研修を開催する	メーカーのマニュアルを使用して研修を行う	★★★★
	再生品の品質確保	社内基準値を順守する	内部分析・外部分析	★★★★
	設備の月間点検	月1回実施	月間点検記録の内容に従って実施	★★★★
	再生品の販売量確保	一定量の販売を確保	取引の強化・見直し	★★★
本 社	社員のレベルアップ	法改正に関するセミナーに参加する	セミナーの調査、研修申込等	★★★
	電子マニフェストの推進	紙マニフェストからの移行	顧客との交渉	★★★
運 輸 部	情報公開 顧客サービスの充実	優良処理業者の維持	許可更新での申請	★★★★
	残業時間の軽減	全運転手の月残業を目標値以内に作る	配車計画の効率化	★★★★
	法令の順守	交通違反・交通事故ゼロを目指す	道交法の順守、社員教育など	★★★★
	指針12項目教育	月1回実施	社員教育の実施	★★★★

★目標未達成 ★★目標ほぼ達成 ★★★★目標達成

環境データ

中間処理場排出汚泥の化学測定結果

南港処理センター

項 目	単 位	廃棄物処理法 基準値	最終処分場 受入基準	測定値		
				最小値	最大値	頻 度
カドミウム	mg / L	0.09	0.09	<0.01	0.04	1 回 / 月
鉛	mg / L	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1 回 / 月
六価クロム	mg / L	1.5	0.5	<0.05	0.05	1 回 / 月
砒素	mg / L	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1 回 / 月
セレン	mg / L	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1 回 / 月
シアン	mg / L	1	1	<0.1	<0.1	1 回 / 月
熱灼減量	%	—	15	4.5	7.3	1 回 / 月

泉プラント

項 目	単 位	廃棄物処理法 基準値	最終処分場 受入基準	測定値		
				最小値	最大値	頻 度
カドミウム	mg / L	0.09	0.09	<0.01	<0.01	1 回 / 月
鉛	mg / L	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1 回 / 月
六価クロム	mg / L	1.5	0.5	<0.05	0.05	1 回 / 月
砒素	mg / L	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1 回 / 月
セレン	mg / L	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1 回 / 月
シアン	mg / L	1	1	<0.1	<0.1	1 回 / 月
熱灼減量	%	—	15	4.9	7.0	1 回 / 月

物品のリサイクル活動

私たちは、資源の新たな可能性と価値の発見に取り組む組織として、身近なすべてのものを注意深く見つけ、再利用を図っています。

使用済み切手も、キロ単位の重さになると換金され寄付に用いることができます。回収された使用済み切手は、ボランティア組織から切手商の手を経て、切手コレクターに渡ります。このことで新たな価値を生み出し、換金・寄付によって困窮する世界の人々の役に立ちます。



事務用品や衛生用品の梱包材など、事業活動で発生するダンボールも環境資源と考え、2014年からリサイクル活動をスタートしました。2023年(1月～12月)は200kgのダンボールを再資源化。備品・消耗品の荷ほどき後、ダンボールを所定の位置に運ぶという「ひと手間」の慣習化により、従業員の環境意識が高まりを見せています。



揺るぎない環境理念に根ざして

2023年(令和5年)度の大幸工業株式会社・大阪ベントナイト事業協同組合の環境方針が示され、地球環境の保全・循環型社会構築を目指して、事業の主軸を据え組織強化を図り、顧客サービスをさらに充実することが改めて確認されました。

年度方針・環境方針

社長方針 「継続」

- 一、未来志向で明るい会社経営の継続を目指す
- 一、製品技術の新機軸革新で成長を継続する
- 一、全社員で築く明るい職場環境の継続

環境方針 私たちは、地球の環境保全、持続可能な社会の実現が人類共通の最重要課題であることを認識し、廃棄物の適正処理、リサイクル技術及びリサイクルシステムの研究開発に取り組み、循環型社会の形成に貢献します。

ISOスローガン「考えよう 一人ひとりができるエコ」

1 安全・安定操業の確保

- ① 教育・訓練を充実し個々のレベルアップを図る。
 - ・社外研修会等へ積極的に参加しレベルアップを図る。
- ② 事故・トラブルの原因を徹底究明し再発を防止する。
 - ・事故対策会議を実施し類似事故の再発を防止する。

2 組織の強化と業績改善の推進

- ① 法令順守と情報公開
 - ・産廃ネット等での情報公開を推進し企業イメージのアップを図る。
 - ・電子マニフェスト化の推進等により法令順守意識の高揚を図る。
- ② 業績改善の推進
 - ・業績改善提案制度を推進し、全員参加で業績改善に取り組む。
 - ・ISO活動を継続し、業務の標準化と文書管理の簡素化を推進する。
 - ・リサイクル製品の品質向上を図り、顧客満足向上に努める。

3 「地球を大切に」を合言葉に、循環型社会の構築を推進する。

- ① 車両・重機の燃料効率の向上
 - ・エコドライブの実践 ― 急発進・急加速防止・アイドリングストップに務める。
- ② 「もったいない運動」の推進
 - ・紙使用削減、薬剤使用削減、電力使用削減に務める。
- ③ 地域との共存共栄の推進
 - ・道路美化運動等に積極的に参加し、地域貢献に努める。

4 顧客サービスの充実

- ① 顧客ニーズに対応した処理システムの開発
 - ・3Rコスト削減等の顧客ニーズに即応したリサイクルシステムの開発を推進する。

環境マネジメント・認証取得

ISO 取得状況

大幸グループは、総括的な企業風土、従業員個人の社会貢献意欲を含めたあらゆる側面において、「地球・産業・暮らしの調和」を目指しています。こうした指針により、業界に先駆けて ISO9001、ISO14001 の認証を取得し、環境マネジメントの社内体制を整備。リデュース・リユース・リサイクルの徹底を図るとともに、地球環境保全に役立つ技術と製品の開発に努めています。

内部環境監査

ISO9001、ISO14001 取得を早期に果たした大幸グループ各事業所では、環境マネジメントシステムのPDCA サイクルに基づき、内部監査を実施。環境実績の組織的・継続的な改善システム、実績向上の推移、法規制順守などに関する審査を実施しています。

外部環境監査

内部環境監査に加え、環境マネジメントシステムの有効性を確認するため、認証機関の BM トラダ・ジャパンによる監査を受けています。例年、審査結果をもとに指摘事項の改善を実施し、環境マネジメントシステムの有効かつ適正な運用によって認証登録を更新しています。

第三者意見 カarbonニュートラルへの新たなチャレンジに期待します。

2023 大幸グループ CSR 報告書によると、大幸グループでは大阪湾沿岸の堺プラントにおいて太陽光パネルの設置や流動化処理土「ポリソイル」製造時のCO₂削減に貢献する『海水淡水化装置』の導入、リサイクル製品（再生土）の海上輸送といったCO₂削減の取り組みに加えて、ハイブリッドソイルの原料となる再生土を「CO₂固定・建設汚泥再生土」に進化させる研究開発も進められています。

さらに今年は「津波避難ビル兼車輛センター」を地域の防災・防火活動の基地とし、地域と協働で防災訓練を行うなど地域の防災・防火活動の活性化に力を入れています。過日の「防災フェスタ」では「子どもたちが防火・防災意識を高め、自分で考えて行動する」ために、住之江消防署と合同で総合消火訓練(ジュニア防災ミッション)を開催しており、大阪市消防局とも「消火廃液運搬の協定」および「消火廃液受入れの協定」や「土砂埋没災害時における消

防活動への協力に対する協定」などを積極的に締結されています。

CSR 報告書では、従業員研修などの企業内教育、市民参加の寄せ植え教室や泥フェスティバルなどの地域学校協働活動事業、そして循環型ハイブリッドソイル(H.B.S) 事業推進のため、「安全安心な 0 円 /t-CO₂ の CO₂排出量削減技術」の導入や、CSR 報告書を活用した持続可能な開発のための教育(ESD)の大学授業や従業員研修での取り組みなどを進められています。こうした取り組みは社会において、ますます必修不可欠なものであり、健全で、強い組織作りの要になると考えられます。大幸グループのさらなる発展に期待します。

京都大学 大学院地球環境学堂
教授 **勝見 武**



責任意識を重視したリスク管理、 グループ目標と社会倫理の理解・実践



安全衛生、危機管理、セキュリティといった各分野において積極的にコンプライアンスに取り組み、従業員への啓蒙・教育と周知徹底に努めています。また、従業員の一人ひとりが大幸グループの目指す持続可能な方向性を理解し、守るべきルールを順守して、有効・効率的かつ適正に行動するよう指導しています。

労働安全衛生への取り組み

大幸グループの安全衛生への取り組みは、朝礼および報告・連絡・相談・確認の徹底、そして的確なマニュアルを基にした柔軟な現場対応、特に責任意識の徹底に重点を置いています。マニュアルがたとえ完成されたものであっても、それにすべてを依存するのではなく、臨機応変に対応する、体で判断するということが危機管理には必要不可欠な要素であるからです。特に当グループの場合、プラント、各部署によって業務の事情や状況が異なり、各プラントだけで取り扱う物や処理業などにより対応すべき課題は違います。具体的には、各プラントの処理業務に応じたそれぞれに求められる的確で即時的な危機管理体制を目指し、作業着・靴・手袋・マスク等の着用といった基本的な作業姿勢、熱中症対策として水分・塩分補給の徹底、状況に応じた管理体制を、それぞれが目的意識を持って取り組んでいます。



リスクアセスメントの実施

業務には絶えずさまざまな危険因子が潜んでいます。その危険度に応じた評価を判定し、危険因子への対応策に優先順位をつけて意識的に確認しています。例えば、日々の朝礼時にKY(危険予知)ミーティングを実施しており、その日の作業内容から危険要因を指摘し合い、危険を回避するための対策を決めてから作業に取り組んでいます。営業活動の段階でも、危険を伴う処理の契約時には有

害・危険物質の存在と状況の説明、受け入れ場所やドライバー等の条件に基づいた処理要領、危険度に応じた対応を確認しています。また、事故発生時の各責任者の対応マニュアルについては、熟練の現場担当者が主体となって作成することになっています。

健全な経営を目指すコンプライアンスと教育

コンプライアンスは一般に法令順守と解釈されていますが、法の規定だけにとらわれ、厳密な規制のみ受容すると、企業としての発展性は損なわれる可能性があります。法の精神は守るべきものとし、単純な社内制度化でなく、組織が何をビジョンに機能しているのかを従業員全体が理解して、未来につながる企業へと成長していかなければなりません。

情報セキュリティ管理

情報通信の進化によって、情報管理の重要性が高まっています。情報漏えいに関しては、組織としても自己防衛的確な形を作っていくことが必要となっています。個人情報保護法や法令による規制はあるものの、やはり従業員全員が

自覚と認識をもって大切な情報を保護しなければなりません。大幸グループは情報の管理をブロックごとに行い、その責任体系を明確にするとともに、必要な情報の共有という問題に取り組んでいます。

大幸グループ事業概要

大幸工業株式会社

本社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002

東京支店 〒105-0003 東京都港区西新橋1-18-6
クロスオフィス内幸町12階
TEL 03-5501-1370 FAX 03-5501-1371

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬
浚渫工事の施工及び請負 流動化処理土の販売
一般貨物自動車運送事業 特定旅客自動車運送事業
土木、建築工事の施工及び請負 各種清掃業

大阪ベントナイト事業協同組合

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37
TEL 06-6686-0003 FAX 06-6686-0004

汚泥・廃酸・廃アルカリの中間処理、流動化処理土の製造
組合員の取扱う汚泥の共同処理
組合事業の知識普及をはかるための教育・情報提供

堺大幸工業有限会社

〒590-0063 大阪府堺市堺区中安井町3-4-10
TEL 072-238-3059

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬
土木、建築工事の施工及び請負

大幸工業株式会社 泉佐野

〒598-0007 大阪府泉佐野市上町2丁目2-11
光ビル2階
TEL 072-429-9147 FAX 072-429-9146

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬
浚渫工事の施工及び請負 一般貨物自動車運送事業
ビルメンテナンス業

北部大幸工業有限会社

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-5-13
TEL 06-6226-0882

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬
土木、建築工事の施工及び請負

有限会社大幸リース

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37
TEL 06-6686-0005 FAX 06-6686-0002

機械のリース、運搬車両のリース



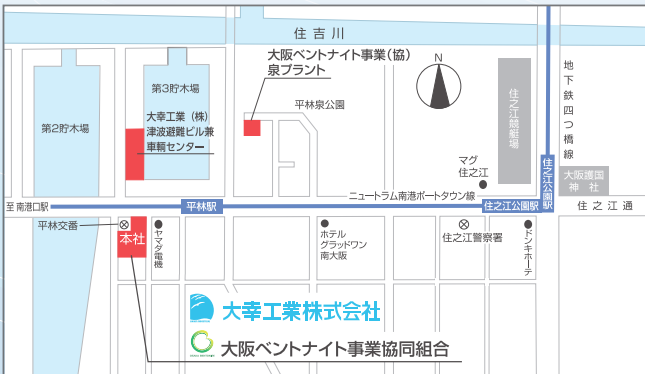
大幸工業株式会社

本社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002

東京支店 〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目18番6号
クロスオフィス内幸町12階
TEL 03-5501-1370 FAX 03-5501-1371

大阪ベントナイト事業協同組合

本社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0003 FAX 06-6686-0004



大幸グループ2023CSR 報告書 アンケート

大幸グループCSR事務局宛 E-mail:sea-mew@daiko-group.com
FAX:06-6686-0002

皆様のご意見・ご感想を、今後の活動や報告書作成に生かして参ります。
お手数ですが、下記のアンケートにご回答頂き、FAX や E メールなどでご返送頂ければ幸いです。

Q1 この報告書をどのようにしてお知りになりましたか。

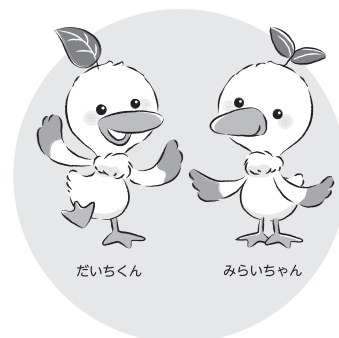
☐当グループからの送付 ☐当グループウェブサイト ☐当グループ以外のウェブサイト ☐当グループ社員から
☐セミナー・講演会 ☐その他 []

Q2 大幸グループ 2023CSR 報告書についての評価をお聞かせ下さい。

1. 全体的な印象	☐ 良い	☐ 普通	☐ 悪い
2. 分かりやすさ	☐ 分かりやすい	☐ 普通	☐ 分かりにくい
3. 内容の充実度	☐ 充実している	☐ 普通	☐ 物足りない
4. 情報量について	☐ 適切	☐ 不足	☐ 多い
5. デザイン	☐ 良い	☐ 普通	☐ 悪い

*悪かった点、分かりにくかった点等をお聞かせ下さい。

()



Q3 この報告書の中で関心をお持ちになった内容をご選択ください。(複数選択可)

☐Top Message ☐特集1／カーボンニュートラルへの挑戦 ☐トピックス／泥だんご教室
☐特集2／新時代に向けて、「スカニア」導入 ☐特集3／地域防災活動、「防災フェスタ」
☐地域・社会貢献活動／こどもベジタブルガーデン、KTK道路清掃美化キャンペーン ☐社内環境整備と人材育成
☐環境対策協議会 (KTK) の活動 ☐環境負荷軽減 ☐環境方針・認証 ☐労働安全・コンプライアンス活動

*その理由をご記入ください。()

Q4 大幸グループのCSR活動や報告書について、その他ご意見・ご感想などがあればご記入ください。

Q5 あなたのプロフィールについてお聞かせ下さい。

・お読みになった立場 ☐お客様・お取引先 ☐企業のCSR・環境ご担当者 ☐当社グループの近隣にお住まいの方
☐行政機関 ☐金融・投資機関 ☐NPO・NGO ☐研究・教育機関 ☐学生
☐報道機関 ☐当社グループ社員・家族 ☐その他 []
・年代 ☐10代 ☐20代 ☐30代 ☐40代 ☐50代 ☐60代 ☐70代以上
・性別 ☐男性 ☐女性

Q6 次回のCSR報告書の発送を希望されますか。

☐はい ☐いいえ

ご協力ありがとうございました。差し支えなければ下記にもご記入ください。

※次回のCSR報告書の発送を希望される方は、お名前とご住所を必ずご記入ください。

お名前

ご職業 (勤務先・学校名)

連絡先電話

ご住所 (□ご自宅 □勤務先等) 〒

メールアドレス

ご記入頂いた個人情報及び内容は、今後のCSR活動の参考のみに利用し、他の目的には利用いたしません。



大幸グループ 2023CSR 報告書

アンケートへのご意見、ご感想を
お聞かせください

大幸グループ2023CSR 報告書をご覧頂き、
ありがとうございました。

皆様からご意見・ご感想をお聞かせ頂き、
当グループの企業活動及び今後の報告書づくりに
活かして参ります。お手数ですが、
裏面にご記入の上お送り頂ければ幸いです。

FAX:06-6686-0002

【お問い合わせ先】

大幸グループ CSR 事務局

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002